

新建ちば

2026/7
No.306

新建築家技術者集団 千葉支部機関紙

千葉の
考現学

歴史の街 佐倉

「西の長崎 東の佐倉」とは、江戸時代に長崎と佐倉が蘭学の中心として並び称されていたことを示すフレーズです。天保14年（1843）蘭方医学の佐藤泰然が、佐倉藩主堀田正陸に招聘され、蘭方医学塾・診療所を開いたのが順天堂です。佐倉の古い街並み・蘭学通りのはずれに順天堂記念館があります。安政5年（1858）に建てられた建物の一部が残っており、現在も当時の医療器具や書籍が展示されています。蘭学通りを歩いていくと古い商家がいくつか建っており趣を添えています。進んでいくと佐倉市立美術館が現れます。大正7年（1918）築の川崎銀行佐倉支店をエントランスとして残し、平成6年（1994）建設されました。設計は坂倉建築研究所大阪です。背後に巨大な箱型風船といったイメージですがエントランスのおかげで古い商家となじんでいるように見えました。（写真・文：加瀬澤文芳）



* 目次 *

02 目次・企画予定表 旅の思い出スケッチ No21

03 仕事ウォッチングーこぶしの里

07 第 47 回世界まち歩き 1 フランス：セザンヌ街道からルールマラン 高山登

10 北九州市門司区：再生に向けた取り組み事例について

12 事務局だより

新建

ちば

2026年7月号

No.306

鈴木進

宇野武夫

田中和広



* 企画予定表 *

月	支部企画	その他企画	全国・他支部企画	その他
7月			16(木) 全国常任幹事会	9 (木) 20:00~ Web 支部幹事会+交流会
8月				13 (木) 20:00~ Web 支部幹事会+交流会
9月			12(土), 13(日) 全国幹事会	10 (木) 20:00~ Web 支部幹事会+交流会
10月			3 (土), 4 (日) 建まちセミナー in 埼玉	8 (木) 20:00~ Web 支部幹事会+交流会

【旅の思い出スケッチ No21】

鈴木 進

● 国外編 (イタリアその2 ローマ・フィレンツェ)



ローマ、フィレンツェは、2度訪れた。歴史を感じる景観に何度行っても興味は尽きない。サン・ピエトロ大聖堂はカトリック教会の中心的聖堂であり、広大な広場に面した巨大な外部空間、内部空間の装飾の迫力には驚嘆させられた。ミケランジェロの嘆きのピエタの前では、暫く立ち止まってしまった。

フィレンツェは芸術の都にふさわしい街並が続く。フィレンツェのサンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂の後陣天蓋部分は工事途中にコンペが行われ、建築家ブルネルレスキ案が採用された建設の経過が興味深い。小高い丘にあるミケランジェロ広場から見たフィレンツェ市内の展望が素晴らしい。天候によりオレンジの屋根の色が微妙に違って見えた。



仕事Watching

特養・こぶしの里

宇野武夫/U C A ・都市・建築設計事務所

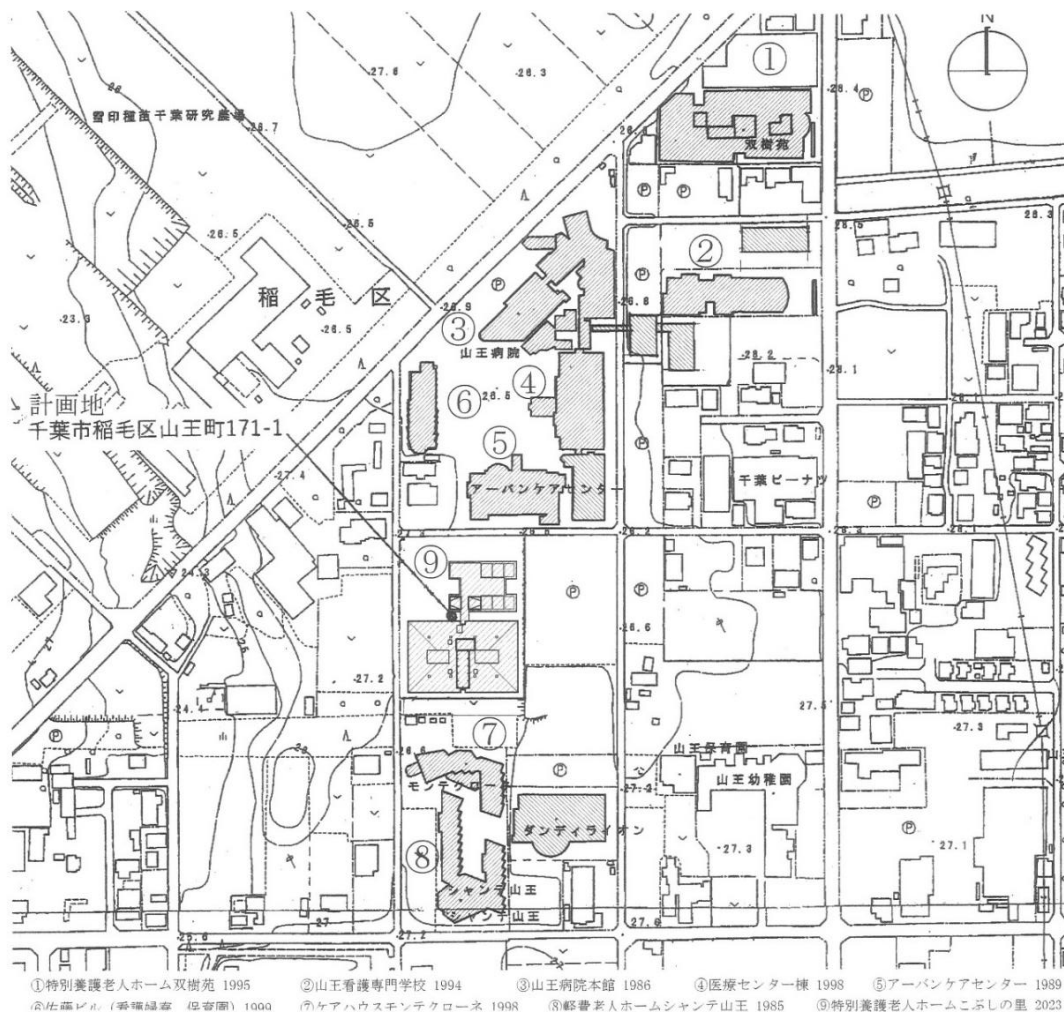
久しぶりに千葉市稲毛区の山王病院協に特養「こぶしの里」をつくりました。千葉市の公募による計画で個室ユニット 120 床（内ショートステイ 20 床）の規模です。基本計画は榎本設計勤務時代に山王病院関係の設計を共にしたノヴァ設計の二階堂三代三氏が担当していたが体調を崩し宇野とバトンタッチをした。この地域は平成に入り老健・アーバンケアセンター、山王看護専門学校、特養・双樹苑増築、看護婦寮（Sビル）、ケアハウス・モンテクロネ、医療センター棟等を宇野が担当し平成 12 年に一区切り。

その後二階堂氏がPET画像センター、老健・ダンディライオン、医療センター増築棟、リニアック棟、山王整形クリニック、特養・桃花苑等の設計を担当し今回の計画になりました。その間約 40 年地域の人々の協力もあり、地域の人々から信頼され安心感のある医療・福祉施設づくりを目標に計画を進め、現在別図の様になりました。設計思想は、各々建築家としての考えにより設計をしています。（実施設計担当：宇野努）



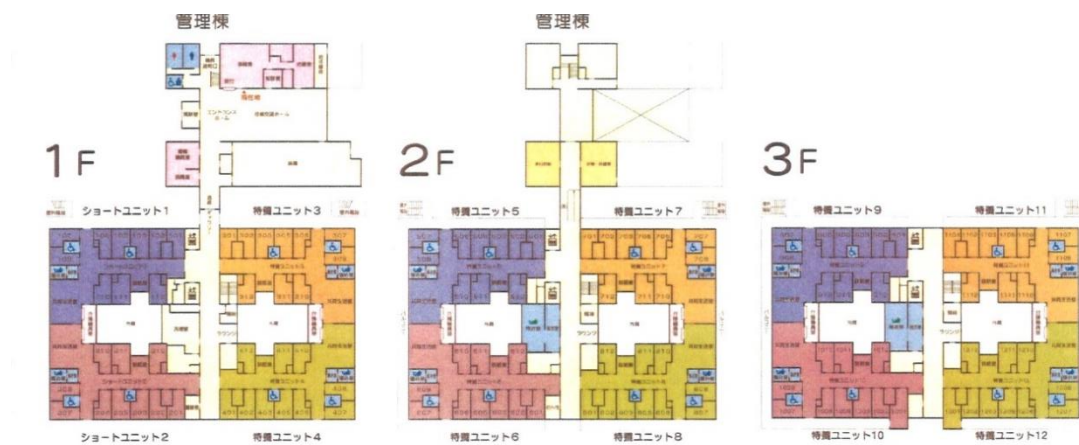
北西側外観：正面が管理棟中央に車寄せが見える。右手に居室棟周囲にバルコニーが見える。撮影全て栗原宏光

この地域は市街化調整区域で高さ 10m 以内に抑えられており、合理的な内法高、天井高、基準法の自然排煙、安心感のある構造計画等をするとかかなり厳しい。将来的に高齢者人口が減少し、空いた施設の転用等を考えると、法を改正し高さを 11m 程度に引き上げ社会的なストックとして再利用可能な空間を計画する必要があると感じた。



上図①～⑨字野担当、番号のない施設は二階堂氏が設計を担当。

下図は特養・こぶしの里平面図



概要：市街化調整雨域。敷地 4,836.59 m²、RC造3階、延 5,437.43 m²、施工：(株)松栄建設、竣工：2023・5・16

外部に出られない入居者に室内からも目に優しい木の表情を見せたいと外部に日陰のできる杉材の縦格子を計画したが、バルコニーが建築面積に算入され、建ぺい率を超えると建築主事に指導され、残念ながら上部 1/2 をカットしてとりやめた。工事の発注時期にロシアによるウクライナ侵攻が始まり心配したが無事完成オープンした。

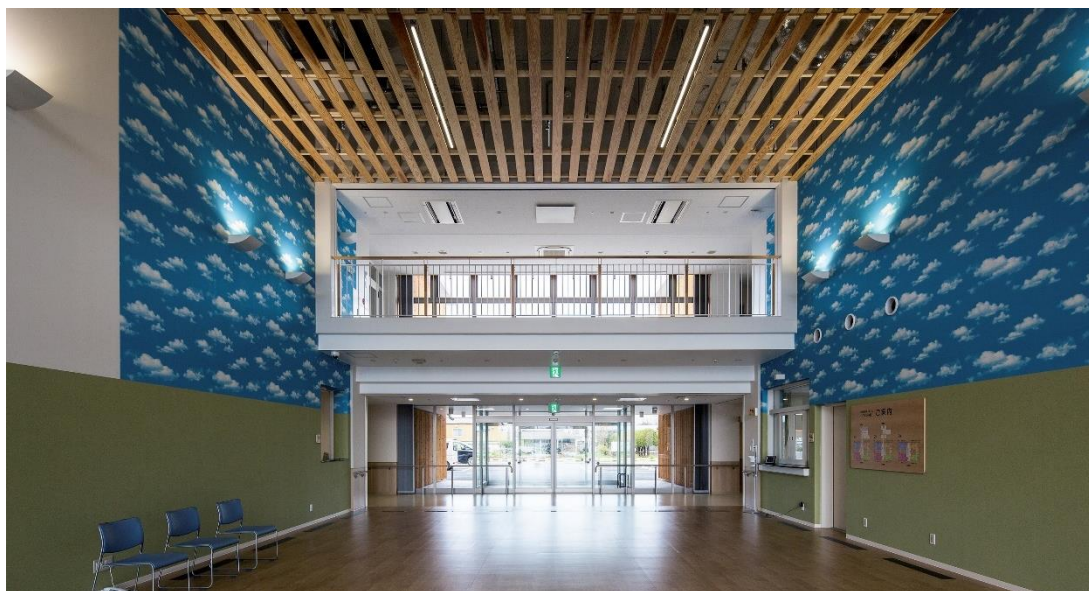


山王病院よりこぶしの里を見る。手前が管理棟、奥が居室棟。その奥にケアハウスが見える。



居室棟南側外観。バルコニーにH1/2の木格子が見える。奥に山王病院が見える。

管理棟には、地域の人々が日常的に交流できる広いホールを設けた。災害時の避難空間としてフラットな二重床や気積の大きい自然採光のある空間を用意した。自然災害に備えて備蓄倉庫、非常電源、貯水槽、雨水貯留槽、2階屋上に非常時の発電機や燃料、空調機等を用意している。



地域交流ホール。自然光、風、気積の大きい空間。地域交流空間、災害時の避難空間として計画。



ユニット内トイレ付居室。左手にトイレ、正面に洗面化粧台、奥に2本引戸の入口が見える。

※掲載雑誌；建築設計資料 34 老人ホーム、56 専門学校、83 ホスピス・緩和ケア病棟、建築ジャーナル NO1029

3. セザンヌ街道からルールマランへ

前回ご紹介したエクス・アン・プロヴァンス(エクス)から次にトロネ街道(通称「セザンヌの道」)に向います。この道はポール・セザンヌの足跡をたどるエクスの田園地帯です。農道のような細い道はフランスで唯一歴史的建造物として分類されています。



エクスの東にそびえる標高約 1000mの雄大な山が見えてきます。プロヴァンスを象徴するサント・ヴィクトワール山です。セザンヌがこの山に魅せられて描いた絵が、あの有名な「サント・ヴィクトワール山」です。写真①は、エクス在住で日本人ガイドのY子さん運転の車窓より撮ったものです。特にこのエリアは田園風景が美しく、サイクリングがとっても人気とのこと。プロヴァンス地方を代表する絵になる風景です。



つぎにレロープの丘に立ち寄り、その後小さな田舎町ルールマランへと向かいます。

以下、見所をご紹介します。

レロープの丘

セザンヌはアトリエから画材を背負い、この



丘にデッサンにかよひ、サント・ヴィクトワール山をなんと80回以上も描き続けた。1906 年、デッサン中のセザンヌは激しい雷雨に遭遇。それが元で肺炎を発症し 67 歳の生涯を閉じた。この丘には 9 点の複製画とセザンヌのデッサン中の写真がパネル展示されている(写真②③)

ルールマラン村 「フランスの最も美しい村」認定

村の人口 1,142 人(2015 年)オリーブ畑や果樹園の緑に囲まれた美しい村。山あいの村とは思えない洗練された雰囲気がある。

この村は「フランスで最も美しい村」認定の村。フランスには美しい村を認定する協会がある。1982 年設立、27 項目の厳しい審査を経て認定される。認定を受けると村の入り口に、そのマークのプレートが村の誇りとして掲げられる。写真④の赤い看板がその認証。

このような村は世界的に有名で、日本でも多数の本で紹介されている。これを真似た「日本で最も美しい村」の日本版認定もある。

また「異邦人」「ペスト」などを著わしたノーベル文学賞作家アルベール・カミュが晩年を過ごした村としても有名。



① ルールマラン城

お城は村の中心から西へ少し離れた場所にあり、緑の芝生の向こうに優雅な姿をみせている。ルネサンス様式建築の傑作と名高いルールマラン城がたたずむ(写真⑤)。1475 年建造でその後 16 世紀に増築。現在は若い作家や芸術家の活動を支援したり、芸術のイベント会場として公開されている。

写真⑥はお城からみた村の全景。手前にみえる教会はプロテスタン教会でその後方にコンパクトにまとまった村が続く。山あいとも調和した美しい田園風景をなす。



② 村の中心地区

小さな村は可愛らしい石造りの家々で構成され、村の中心地区はおしゃれなカフェや素敵なブティック、パン屋、床屋、食料品店など村の生活に溶け込んだ店が並ぶ(写真⑦)。

また陶芸家や画家のアトリエは 15 軒も散在している。一方、村の人たちが住んでいるひっそりとした風景と、それぞれ別の顔を持つ。

このような魅力に富んだこの村は、観光客よりもこの村に別荘をもつ人々で賑わっているという。



③ 住宅街

村の中心地区からはずれた路地に入ると、ひっそりとした住宅街になる(写真⑧)。ケルシー地方の伝統的な民家が建ち並ぶ。起伏に富み湾曲した路地は中世の村のたたずまい。石づ



くりの家々はバラやツタで飾られるなど魅力一杯の風景！！「フランスで最も美しい村」認定の村として納得。都会人憧れの住まい。まるで絵本に出てくるようなノスタルジックなまち並。この町の魅力に寄せられて、著名人やお金持ちの人達の別荘も数多くあるという。某元フランス大統領の第二婦人の家も。

現代住宅では決して味わえないこのような村の家々。村全体が歴史的遺産として魅了され、住み継がれている。

【北九州市門司区:再生に向けた取り組み事例について:田中 和広】

北九州市は、かつて製鉄や石炭の積出などで栄え、1963年4月に門司・小倉・若松・八幡・戸畑の5市が対等合併して、人口100万人の政令指定都市として誕生したが、時代の変化、特にエネルギー分野での利用・需要の変化に伴い、環境やICT重視への産業構造転換等によって、人口が流出し、2026年4月の人口推計値は、90万人を割り込んでいます。

行政トップの号令により、子育て支援など様々な人口増加についての政策も行っていますが、民間レベルでの街の再生等により、人口を増やして賑わいを取り戻そうとする動きも出てきています。今回はそのひとつとして、門司区における団地の再生に取り組む事例を紹介いたします。このプロジェクトは「渋沢プロジェクト」と名付けられ、**場所はJR門司港駅から徒歩約20分の、通称「門司レトロ地区」の外縁部にあたります。**

この団地は、福岡県住宅供給公社が1951年に建設（RC造4階49A型の設計：6畳8畳和室にコンパクトキッチン）しましたが、2021年に使用期限が切れて、入居者がいない状態になりました。そのため解体を検討していましたが、費用が1億以上かかるため、公社が売却公募を行うことになりました。2024年6月売却公募で、福岡市の不動産会社有限会社吉浦ビルが90万で落札、**2024年9月から家賃1万/月（3年間限定その後は3万/月の予定）、入居者がDIY（内装や水回りなど）する条件で、新たな利用者を募集（DIYの材料はオーナーが提供する条件）したところA棟・B棟計全34戸が完約になりました。**



完約に至るまでは、SNSやYouTube、メディアでの宣伝効果が大きく全国から応募者が集まりました。応募者の入居形態は様々で、カフェ/芸術家アトリエ/事務所/自身の住居等、年齢層も学生から退職シニアまで広範です。現役の建築士もいるので、DIYのコツなどは、屋上や団地前の場所でのコミュニケーションを通じてノウハウがシェアされま

そして自分自身の力で、自分の想いを実現していけることが、入居者の生きがい・やりがいになっているみたいです。

〈写真左は外観(左手前に机/椅子)赤枠が訪問先〉

多くの試行錯誤を繰り返しながら、新たなコミュニティが育ち始め、再生の核ができて多様な芽（夢）が育とうとしています。インキュベーション施設として動き始めています。

こうした取り組みにメディアも着目して、多くの番組が2025年に取り上げました。

<https://www.youtube.com/watch?v=QJxZ5uJQKt0>（羽鳥真一モーニングショー2025年9月放送）

今回は、平日の昼間に訪問したため、人気のレストランはお休みでしたが、本が読めるカフェは幸い営業中でした。団地の階段を4階まで上ります、階段の途中にはオーナーが提供されたDIYの資材等が散見されました。未だ改装中のところがある様子です。

お店の中に入り撮影の許可を得て、最初に目についたのが、黒板（オーナーが提供）手作り感満載のメニューが、団地の一室再生にピッタリフィットしている感じです。中からは門司港レトロ地区や、周辺のまちなみや、低い山々が見えます。黒川紀章氏が設計した、31階建て高層マンションの屋上にある、「レトロハイマート展望室」も見ることができます。

そして何よりも、窓が開いており、海と山を行き来する風の流れが、とても心地良かったです。実はこの団地を挟むように、短い距離で海と山があり、A棟の向かいにある、草に覆われているB棟側(山側)からの涼しい風と、海側の海峡を伝ってくる風の両方を感じられるのです。エアコンも新たに設置されていましたが、風の時間帯や、冬場の寒い時ぐらいしか使用しないと思います。

出窓には、店主さん自身がタイルを張られていました。ここに座って本も読めるそうです。トイレは電気が切れていましたが、和式から洋式に便座を取り換えてました。トイレ内にいくつかの配管むき出しになっているのも、アクセントに思えました。1畳ほどの隠れ家的な読書スペースもあります。



黒川氏設計の展望台 黒板メニューと隠れ家的空間

DIYでタイル張

個人の住居利用

今回は訪問できませんでしたが、土日に開業しているレストランがあります。またフラワーアレンジメント等と販売している店、同じ趣味で集まるコミュニティ、芸術家のアトリエ等もあります。

また5月に閉店した、看護師さんが営むカフェは、新たな活動に巣立ったみたいです。
さらにB棟側は、現在改装中のものが多い様子でしたので、改めて訪問したいと思います。

さて門司港レトロ地区は、1989年からアプル総合計画事務所(中野恒明代表)が中心となって、公共空間・景観のデザインを実施していますが、**観光客は短時間滞在型であり、レトロ地区の外縁部にあたる、旧市街地区への観光・経済波及が課題**になっています。

北九州市もトップの号令により、長時間滞在型への政策を進めています。今回紹介した団地の再生事例は、この外縁部にあたります。なお旧市街には、料亭建築などの歴史的建造物もあります。焼きカレーやウイグル料理などを提供する、古民家を改装したお店もあります。



三宜楼料亭建築



古民家カフェ(ウイグルレストラン)



星野リゾートBEB5

最後に最新の動きとして、7月24日には、**星野リゾートBEB5が、門司港レトロ地区に開業**します。

市長の肝いりプロジェクトでもあります。<https://hoshinoresorts.com/ja/hotels/beb5mojiko/>

関門海峡ステイをコンセプトにした、平日は1万円未満で宿泊できる、新たなものです。

これらの項目は、今回の続編として、改めて寄稿できたらと思っています。

○建築とまちづくりセミナーin 埼玉

テーマ：埼玉から愛をこめて「建築とまち」の歴史と未来を考える

開催日：10月3日（土）13：00～20：30 4日（日）9：00～16：00

会場：埼玉会館（前川國男設計）2階ラウンジ（定員 90 名）

詳細と申し込みは全国ホームページ参照。支部事務局でも対応します。

○支部幹事会

毎月第2木曜日夜8時からZOOMで開催しています。支部の企画について話し合うことと支部機関誌「新建ちば」の編集会議をしています。支部会員は自由参加ですので是非ご参加ください。「新建ちば」は会員の日ごろの仕事、活動を紹介することを主としています。皆様の投稿を期待しています。個別に声をかけさせていただきますので、ご協力ください。

○WEB ちば塾

幹事の持ち回りで原則隔月第1金曜日に開催することになっています。幹事会にて検討中。

○建築・街並み探訪

年2回程度（候補地：東金、市川、行徳、三里塚など）特に東金検討中です。

以上お問い合わせは事務局まで

事務局だより

6月28日（日）「仕事を語る会」を館山市ゴンジロウにて開催しました。支部からは5名、現地精神科ドクター、岡部夫妻と岡部研究室の学生が多数参加しました。時間は日曜日の午前中のみで短時間でしたが、充実した内容でした。次号で報告します。（加瀬澤）

新建千葉支部事務局：株式会社 ゆま空間設計

TEL:043-253-8801 FAX:043-253-8806

千葉市若葉区みつわ台5-4-14

E-mail: office@yumaku-kan.co.jp

新建千葉支部ホームページ : <http://www5e.biglobe.ne.jp/~shinken/chiba/>

発行：千葉支部幹事会
編集：千葉支部幹事会
編集ワーク：中安博司

編集後記：コロナ後の工事費の急騰により公共事業の入札不調が全国で起こっています。超高層など将来の負の遺産となりうる事業は頓挫した方が良いのですが、生活者に直結する住宅まで影響が広がっており、どう対応するか苦戦しています。（中安）